



ぎょどう なん 魚道って何なの

さかな とお つく みち 魚が通るために造った道

かわには、いろいろなさかながすんでいます。川で生まれ、川を下って海に出るさかなや、海に出てから、また、生まれた川にもどってくる魚もいます。

人間は、自分たちの生活のために、川にダムや水門などを造ります。ところが、人間にとって便利なものは、魚にとっては、たいへんな障害物です。それまで、川をさかのぼったり、下ったりしていたのに、とつぜん、ダムや水門ができて、それができなくなってしまうからです。

ジャンプできる魚は、落差が、それほど高くない障害物なら、のりこえることができますが、ジャンプできない魚は、それから先に行けなくなってしまいます。

そこで、ダムや水門の一部に、魚が自由に上下できるように、魚の通り道が造られるようになりました。これを「魚道」といいます。

ぎょどう いろいろなタイプがある魚道

これまで、おもに階段式の魚道が造られてきましたが、今では、魚の性質を考慮して、いろいろな魚道が造られるようになりました。

プールや水路を造ったもの、門を開け閉めして水の高さを上げ下げできるものなどがあります。魚道を造るときは、ながれる水のスピードに注意し、魚が鳥にねらわれないように、身を守るような石や植物をおいたり、魚の習性を考え、魚道の 上流側 や下流側に浅瀬を造るなどの、細かな心くばりが必要です。（監修・保岡 孝之）

